

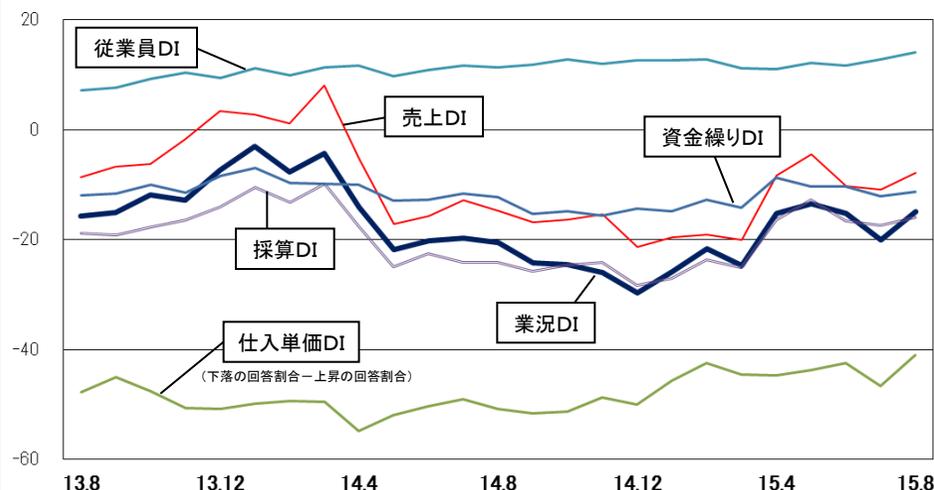


業況DIは、3カ月ぶりの改善。先行きは回復見込むも、力強さを欠く

ポイント

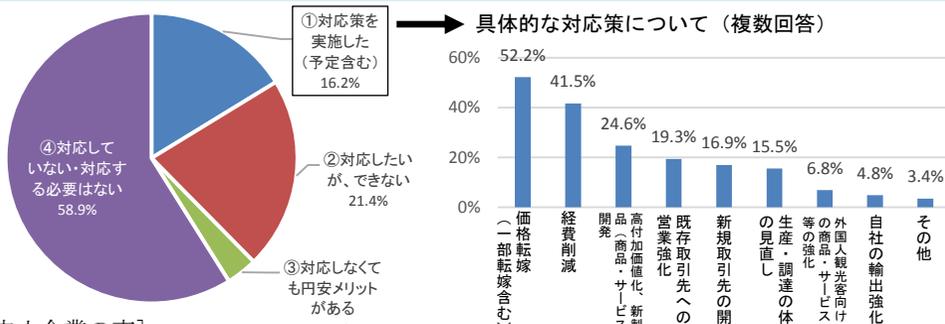
- ▶ 8月の全産業合計の業況DIは、▲14.9と、前月から+5.1ポイントの改善。好調な観光関連が全体を牽引する中、プレミアム付商品券などの政策効果や猛暑の影響による受注・売上がみられたほか、住宅・設備投資も持ち直しに向けた動きが続く。ただし、「悪化」から「不変」への変化もDIの押し上げ要因となったことに留意が必要。価格転嫁の遅れや人手不足、人件費の上昇が足かせとなる状況は変わらず、地域や業種によって回復のペースにばらつきが残るなど、一進一退の動きとなっている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲13.5(今月比+1.4ポイント)と改善を見込むも、「悪化」から「不変」への変化が主因。プレミアム付商品券などによる消費喚起や、インバウンドをはじめとする観光関連の需要増、住宅・設備投資の回復などへの期待感が伺える。他方で、コスト増加分の転嫁遅れや人手不足の状況が続く中、食料品などの値上げに伴う消費者マインドの低下や、中国経済の減速による影響を懸念する声が聞かれるなど、先行きに確信を持ってない企業も多く、回復に力強さを欠く。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2013年8月以降)



円安への対応状況

- ▶ この1年間における円安への対応状況について、「対応策を実施した(予定含む)」と回答した企業(全産業)は、16.2%、「対応していない・対応する必要はない」と回答した企業(全産業)は、58.9%

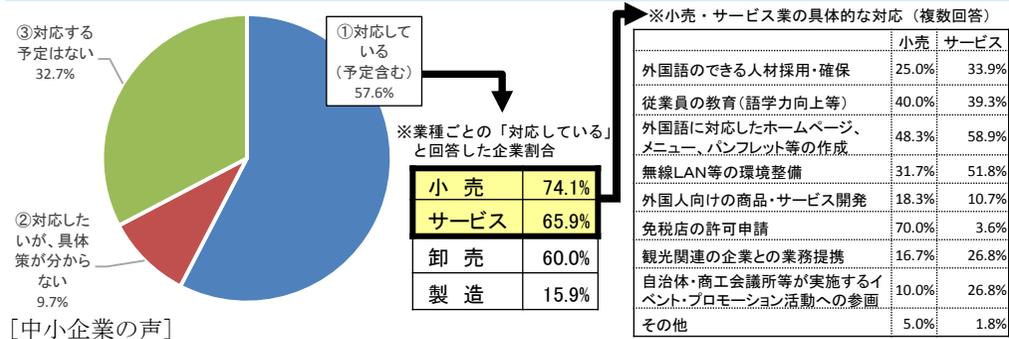


[中小企業の声]

- ▶ 円安進行に伴い、仕入価格が上昇。転嫁をしたいが、一度販売価格を引き上げているため、再度の転嫁は厳しい (東京・化学製品専門商社)
- ▶ 輸入木材の仕入コストが増大しているため、取引先に国産木材への切り替えを提案するとともに、製品の高付加価値化を進めている (大阪・製材木製品製造)
- ▶ 円安の長期化を受けて、輸入する材料の仕入先を見直し、コスト削減を図る予定 (神戸・靴製造販売)

インバウンド需要獲得に向けた対応状況

- ▶ インバウンド需要の獲得に向けた対応状況について、「対応している(予定含む)」と回答した企業(建設業を除く全産業)は、57.6%、「対応する予定はない」と回答した企業(建設業を除く全産業)は、32.7%



[中小企業の声]

- ▶ 外国人観光客の増加により売上が伸びているが、インバウンド需要の活況がいつまで続くか確信が持てず、人員増に踏み切れない (札幌・海産物加工品製造)
- ▶ 外国人観光客の利用が増えているため、接客の仕方などのソフト面と案内表示などのハード面に対応を検討している (川口・総合スーパー)
- ▶ 香港・台湾などへの営業を強化した他、英語・中国語に対応したホームページを開設した (徳島・ホテル業)